

令和4年度広報委員会行政視察報告書

広報委員長 宇留間 又衛門

目次

1	視察概要	3
	視察日程	3
	視察委員	3
	調査目的	3
	視察地及び調査項目	3
2	視察報告	5
	(1) 川崎市議会	5
	(2) 名古屋市会	10
	(3) 両市の状況	15
3	視察の所感	16
	(1) 委員会中継	16
	(2) SNS	17

1 視察概要

視察日程

令和4年10月24日（月）～25日（火）

視察委員

委員長	宇留間 又衛門
副委員長	青山 雅紀
委員	前田 健一郎、麻生 紀雄、秋山 陽、伊藤 隆広、 盛田 眞弓、岩崎 明子
随員	坂入 貴博、村井 美香

調査目的

令和5年度中の委員会中継開始に向け、幹事長会議から広報委員会に各種検討を指示される可能性があるため、それに備え、委員会中継の運営方法や業務負担等を学ぶ。また、さらに親しまれるSNSとするため、議員の関わり方等の実情を学ぶ。

視察地及び調査項目

本市が予定している委員会中継の撮影方法と同様に、定点カメラ1台で撮影し、インターネット配信を業務委託等により実施している政令市として、川崎市と名古屋市を選定した。

また、川崎市については、本市と同様に広報手段としてFacebookとTwitterを利用しており、フォロワー数が本市と同程度であることから視察先として選定した。

なお、オンラインによる視察も検討したが、職員による中継機器の操作に係る事務負担の確認や、中継カメラの設置位置等を確認する必要があったため、現地視察を行うこととした。

(1) 川崎市議会 (10月24日)

視察テーマ：委員会中継と SNS

■ 委員会中継に関する取り組みについて

- ・ 概要（実施に至った経緯、経費の内訳、視聴数等）
- ・ 協議主体と協議の進め方
- ・ 生中継時における議員の遵守事項
- ・ 視聴者の遵守事項
- ・ 不適切発言への対応（録画放映への影響）
- ・ 職員の作業内容と負担
- ・ 会議資料の掲載について（掲載開始時期、作業内容及び執行部との調整等）
- ・ 視聴してもらうための工夫（画面構成、広報、議会運営面等）
- ・ 過去に行った改善や現状の課題について
- ・ システムの仕様上、気になっているところ

■ SNSに関する取り組みについて

- ・ 概要（発信内容、発信回数、発信のタイミング等）
- ・ 協議主体と協議の進め方
- ・ 議員の関わり方（投稿に対するいいね、リツイート等）
- ・ 職員の作業内容と負担
- ・ 見てもらうための工夫（文章構成、写真等）
- ・ 過去に行った改善、現状の課題について

(2) 名古屋市会 (10月25日)

視察テーマ：委員会中継

- ・ 概要（実施に至った経緯、経費の内訳、視聴数等）
- ・ 協議主体と協議の進め方
- ・ 生中継時における議員の遵守事項
- ・ 視聴者の遵守事項
- ・ 不適切発言への対応（録画放映への影響）
- ・ 職員の作業内容と負担
- ・ 会議資料を掲載していない理由について
- ・ 視聴してもらうための工夫（画面構成、広報、議会運営面等）
- ・ 過去に行った改善や現状の課題について
- ・ システムの仕様上、気になっているところ

2 視察報告

(1) 川崎市議会

視察テーマ

委員会中継とSNS

視察概要

ア 説明者

川崎市議会局総務部広報・報道担当

担当課長 井汲 真佐子

担当係長 蟬川 千代

イ 調査項目に関する回答

◆委員会中継

①概要（実施に至った経緯、経費の内訳、視聴数等）

・実施に至った経緯

平成27年5月の議長副議長記者会見で、議長が「議会のICTの推進を進めたい。（中略）委員会も中継できないか検討していきたい」と発言。平成28年10月から中継を開始。

・経費の内訳

導入年 (H28)	委員会中継委託	1,020 千円	H28.8～H29.3
	委員会室映像機器 賃貸借	1,388 千円	H28～R2
現在 (R4)	委員会中継委託	3,723 千円	R4.4～R5.3
	委員会室映像機器 点検保守委託	951 千円	

・視聴数

	H29	R3
生中継	14,618 件	54,396 件
録画放映	29,267 件	36,003 件

②協議主体と協議の進め方

協議主体は団長会議。中継の実施概要について事務局案を協議した。

③生中継時における議員の遵守事項

遵守事項として定めていないが、実態として委員長の許可を得てから発言する、としている。

④視聴者の遵守事項

インターネット議会中継に掲載されている個々の情報（文字、写真、映像等）の著作権は川崎市に帰属するため、利用にあたっては著作権法の範囲内で利用することとしている。

⑤不適切発言への対応（録画放映への影響）

会議録から発言が削除される場合、録画放映の該当箇所の音声削除する。また、会議録に掲載されない発言（理事者交代時の音声）については、削除要請があった場合に対応している。

⑥職員の作業内容と負担

作業内容	タイミング	人工	作業時間
①業者に開催日程送付	1週間前	1人	30分程度
②業者に議事日程送付	前日		
③生中継画面の事前確認			
④生中継画面の事前確認・テロップリスト作成	当日		
⑤業者に中継終了連絡			
⑥業者に編集依頼票送付			
⑦録画映像の事前確認	2日後		
⑧録画映像の公開確認	3日後		

※テロップ操作は、担当書記が実施

⑦会議資料の掲載について（掲載開始時期、作業内容及び執行部との調整等）

・掲載開始時期

令和4年1月から（平成24年度以降分）

・役割分担

（議事運営担当者）

会議開催前に執行部から資料を受領し、ホームページへ掲載する。

（委員会中継担当者）

ASP業者へ資料が掲載されるページのURLを送付する。

- ・ 執行部との調整事項・懸念事項
特に無し

⑧視聴してもらうための工夫（画面構成、広報、議会運営面等）

- ・ 市ホームページ、SNS（Facebook、Twitter）で開催のお知らせと併せてインターネット中継の案内をしている。
- ・ 広報紙やポスターに議会中継に遷移するための QR コードを掲載している。

⑨過去に行った改善や現状の課題について

- ・ 中継ページにおいて、議事日程と議員の座席表のみ掲載していたが、資料や理事者の座席表もみたいとの要望があったため、令和4年1月27日から市ホームページに掲載している資料のページにリンクを掲載し、同ページに理事者の座席表も掲載することとした。
- ・ 同時に2委員会以上開催することが多く、生中継を見られなかった方から当日中に録画放映を見たいという要望が寄せられている。

⑩システムの仕様上、気になっているところ

- ・ テストページと本番ページが別管理となっており、テストページで問題ない状態を確認しても、本番ページで誤った情報が掲載されていることがある。
- ・ 更新ボタンを押してもなかなか最新のページ表記とならないことが多く、キャッシュが残りやすい（都度、履歴を削除して確認している）。

◆ SNS

①概要（発信内容、発信回数、発信のタイミング等）

- ・ 発信内容
定例会・臨時会・委員会情報、議会関係行事、正副議長の出席行事、その他必要な情報
- ・ 発信回数
（開会中）ほぼ毎日 （閉会中）数日に1回程度
- ・ 発信のタイミング
都度

②協議主体と協議の進め方

- 特に無し

③議員の関わり方（投稿に対するいいね、リツイート等）

- 個々の議員にお任せしている（市議会の SNS を議員が投稿することはない）。

④職員の作業内容と負担

作業内容	人工	作業時間
①投稿内容について課内決裁	把握していない ※各課発信のため	10分程度
②投稿		

⑤見てもらうための工夫（文章構成、写真等）

特に無し

⑥過去に行った改善、現状の課題について

フォロワー数の伸び悩みと掲載内容の硬直化が課題

ウ 主な質疑（□：質疑、■答弁）

中継機器の操作説明と委員会中継のデモンストレーションのあと、全体を通して質疑応答を行った。

◆委員会中継

【撮影方法】

- 新庁舎への移転後は、1台のカメラだけではなく、発言者のことも撮影できるようになるのか。
- 現在は会議室後方にある定点カメラ1台で撮影しており、議員は映っているが、理事者は後頭部しか映っていない。これが、新庁舎では、可動式のカメラ3台となる。
- 千葉市は新庁舎では、後方に設置した定点カメラ1台での撮影を予定しているが、川崎市は、新庁舎移転後は正面からも撮影できるようになるということか。
- 正面から撮影できるほか、各議員の名前もテロップ表示できるようになる。
- カメラの台数が1台から3台になるということは、費用は高くなるということか。
- 今回は、市役所庁舎をまとめて新しくしているので、議会の音響・映像システムも新庁舎整備費に含まれていることから、議会の予算としては影響を受けていない。

【録画データの公開期間と議員による二次利用】

- 現在、ホームページ上には令和3、4年分の録画データしか公開されていないが、過去のデータはあるのか。
- 過去のデータは事務局で保管しているが、公開は2年分のみとしている。

- 議員の任期が4年である一方で、録画データの公開を2年で終了している理由はあるか。
- 明確な理由はないが、おそらくサーバーへの負荷といったものが理由と考えられる。
- 議員への録画データの提供はどのように行っているのか。
- 申し合わせを行い、議員から書式に則って依頼があれば、それに対して録画データの提供を行っている。

◆ SNS

- Twitter や Facebook の投稿スピードが早いようだが、早いことによるメリット・デメリットを感じていることはあるか。
- 定型的な投稿が多いため、スケジュールが把握できており、遅滞なく投稿できている。言い方を変えれば、投稿内容が固定化してしまっている。
- 投稿にあたって、意識していることは何か。
- できるだけ写真などの画像を載せたいと思っはいるが、文字情報が多く、あまり実践はできていない。
- Twitter の投稿にハッシュタグを付けていないようだが、何か理由があるのか。
- Twitter は投稿できる文字数に上限があるが、伝えたい情報だけで上限を超えてしまうことが多いため、ハッシュタグは付けずに、できるだけ1投稿で情報発信できるようにしている。



SNS の説明を受ける委員



川崎市議会議場にて

(2) 名古屋市会

視察テーマ

委員会中継

視察概要

ア 説明者

名古屋市会事務局 調査課
課長 荒木 宗貴
図書広報係長 高木 智弘

イ 調査項目に関する回答

◆委員会中継

①概要（実施に至った経緯、経費の内訳、視聴数等）

・実施に至った経緯

平成22年3月に制定した議会基本条例に基づき、市民の皆様に議会の審議をより身近に感じていただくために、平成23年3月から開始

・経費の内訳

初期費用	37,065 千円	設計委託	735 千円
		工事	36,330 千円
維持費用	2,841 千円	中継配信	2,637 千円
		音響保守	204 千円
カメラ等 機材更新費用	18,220 千円	設計委託	943 千円
		工事	17,277 千円

※金額は全て税込み ※維持費用は R3 年度実績額

※カメラ等機材は R3 年に更新

・視聴数

R3	生中継	168,992 件
	録画放映	23,255 件

※生中継のうち、庁内 LAN からのアクセス 117,777 件

②協議主体と協議の進め方

協議主体は、議会運営委員会の理事（各交渉会派の幹事長が就任）で構成される理事会で、平成 21 年 11 月から平成 22 年 3 月にかけて複数回協議を行った。

③生中継時における議員の遵守事項

特に無し。ただし、マイクのオン・オフについては注意してもらっている。

④視聴者の遵守事項

特に無し。ただし、動画の二次利用について問い合わせがあった場合は、著作権が名古屋市会にあるため、ご遠慮いただくよう案内している。

⑤不適切発言への対応（録画放映への影響）

本人からの申し出があり、委員長が必要と認めるときは、該当部分の音声を消去し、その旨をテロップ表示し、配信している。

⑥職員の作業内容と負担

作業内容	タイミング	人工
①中継業者に委員会開催スケジュールを伝える	1週間前	3人
②配信テスト	当日	
③生中継の不具合確認	翌日	
④録画映像の事前確認	2日後	
⑤録画映像の公開確認		

※テロップ操作等は、担当書記が実施

※上記のほか、中継業者と調整し、機器のメンテナンス等を実施

※機器トラブルや不適切発言等があった場合は、職員の負担が増大する

⑦会議資料を掲載していない理由について

会議資料の掲載について、具体的な協議が行われてないため。なお、委員会資料は、開会直前に確定するため、生中継で掲載するためには掲載方法についての議論が必要。

⑧視聴してもらうための工夫（画面構成、広報、議会運営面等）

名古屋市内において全戸配布している「市会だより」において、定期的に本会議・委員会のインターネット中継のご案内を掲載している。

また、平成 29 年度からスマートフォンやタブレットにおける視聴への対応を開始した。

⑨過去に行った改善や現状の課題について

＜改善＞

- ・平成29年に、スマートフォンやタブレットでの視聴に対応した。
- ・令和3年に、耐用年数（10年）を経過したことからカメラの工事を実施するとともに、予備カメラ（1台）の導入も行った。

＜課題＞

- ・設備更新時に多額の経費がかかる。
- ・業務委託をしているため、不具合発生時に業者の対応を待つ必要がある。
- ・中継配信業者と、機器設置業者が異なっているため、不具合発生時に、原因を特定するのが難しい。
- ・委員会中継開始当時は、アナログカメラが主流であったが、昨年の機器更新時には、デジタルカメラが主流となっており、アナログカメラが調達できなかったことから、現在は、デジタル映像をアナログ映像にわざわざ変換して、配信を行っている。配信の完全デジタル化に向けて、機器更新や中継の仕様変更を今後行う必要がある。

⑩システムの仕様上、気になっているところ

YouTubeのライブ配信のように生中継の巻き戻し再生ができると利便性向上につながると思い中継業者に確認したが、そのためにはサーバーを大幅に増強する必要があることから、現状対応が難しいと考えている。

ウ 主な質疑（□：質疑、■答弁）

中継機器の操作説明と委員会中継のデモンストレーションのあと、全体を通して質疑応答を行った。

【撮影方法】

□定点カメラで撮影しているとのことだが、中継映像に発言者の名前は表示されるのか。

■名前の表示はされない。

□定点カメラ1台での撮影で、議員側しか映っていないが、それに対して、執行部の発言の様子もわかるようにしてほしいといった市民要望や議員の中での議論はこれまでにあったか。

■市民からは、年に1、2回程度そういった要望が寄せられるが、議員の中で、そういった議論が行われたことはない。

【録画データの公開期間と議員による二次利用】

□録画データの公開は1年間とのことだが、1年間に限った理由はあるか。

■録画データは公式記録とは位置付けていないため、公式記録である委員会記録が作成されるまでの公開としている。委員会記録が出来上がるまで、実際は1年もかかるわけではないが、目安として1年間としている。なお、録画データを長期間配信しようとする、サーバーに負担もかかるため、中継業者との契約金額にも影響があると考えられる。

【撮影機材の故障への備え】

□昨年、予備のハンドカメラを導入したとのことだが、これまでに中継カメラにトラブルが発生し、ハンドカメラを使用したことはあるか。

■今のところ、ハンドカメラを使用するようなトラブルは発生していない。

□中継カメラにトラブルが発生した場合、ハンドカメラは具体的にどのように使用するのか。

■三脚を使用し、議員側が映るようにカメラを設置するとともに、中継配信用の機器とハンドカメラを有線で接続し、配信を行う。

□複数の委員会があるが、予備のハンドカメラも複数台あるのか。

■予備のハンドカメラは1台のみ。

□ハンドカメラの費用は1台いくらか。

■8万円である。

【会議資料の公開】

□会議資料は掲載していないとのことだが、傍聴者に対して紙での資料提供は行っているか。

■傍聴者へは、会議資料を配付している。インターネット上でも会議資料が見られるとよいと思うが、委員会の会議資料は、開会直前に確定するため、生中継にあわせて資料を掲載するためには、議論が必要。

【アクセス集中への対応】

□ストリーミング配信を行っているとのことだが、アクセス数の上限はどのくらいか。

■仕様書上は、「最低200件は確保すること」としている。

□庁内からのアクセスが年間 12 万件程度となっていることから、定例会中には 1,000 人程度の職員が同時に視聴しているようだが、上限の 200 件を超えているのではないか。

■職員はLAN回線を使用して視聴しているため、アクセス数の制限はない。また、インターネット配信も仕様書上は「最低 200 件」と明記しており、中継業者のサーバーに余裕があれば、200 件以上同時アクセスすることが可能である。



中継のデモンストレーションを見学し、操作について説明を受ける委員



名古屋市会議場にて

(3) 両市の状況

調査項目に関する回答や、質疑応答から知ることができた両市の状況は以下のとおりであった。

委員会中継（川崎市・名古屋市）

【撮影方法】

現在、両市ともに会議室後方の定点カメラ1台で撮影し、議員名のテロップ表示もしていないが、川崎市については、新庁舎移転後は、可動式のカメラ3台体制となり、議員名もテロップ表示するとしている。

【録画データの公開期間と議員による二次利用】

川崎市は、録画データの公開は2年とし、申し合わせに従い、議員へ提供している。また、名古屋市では、録画データは公式記録とは位置付けていないため、公式記録である委員会記録が作成されるまでの1年間の公開としている。

【撮影機材の故障への備え】

名古屋市では、中継カメラのトラブルに備え、予備のハンドカメラを用意している。

【会議資料の公開】

川崎市では、令和4年1月から中継ページに会議資料を掲載しているが、名古屋市では、具体的な協議が行われていないため、現在は掲載していない。

【アクセス集中への対応】

名古屋市では、職員による中継視聴数が多いが、職員は庁内LANを使用しているため、アクセス数の制限はなく、市民による視聴への影響はない。

SNS（川崎市）

定型的な投稿が多いため、スケジュールが把握できており、遅滞なく投稿できているが、それにより投稿内容が固定化し、フォロワー数の伸び悩みが課題となっている。

3 視察の所感

行政視察後に開催した広報委員会において、各委員が視察先で「見て感じた」ことを共有し、今後の委員会活動に生かすために意見交換を行った。

その内容をもとに協議し、次のとおり委員会の所感を取りまとめた。

(1) 委員会中継

【撮影方法】

定点カメラでは臨場感がなく、面白味がない。複数方向から撮影して、発言している議員や職員の顔を映した方が、視聴者も理解しやすいのではないかと。誰が発言しているのかわからない状況は、視聴者にとってストレスになるため、発言者の名前をテロップで表示するといった工夫が必要である。

【録画データの公開期間と議員による二次利用】

議員としては自身のホームページに中継ページへのリンクを貼付けしたい。しかし、録画データの公開期間を過ぎるとリンク切れになってしまうため、公開期間と録画データの提供等を併せて、二次利用について検討していきたい。

【撮影機材の故障への備え】

備え付けカメラの急な故障に備え、予備のハンドカメラも準備した方がいいと思う。また、非常用としてだけでなく、備え付けのカメラから切り替えて、議員のアップの撮影をするなど、何かしらの活用方法を検討してはどうか。

【会議資料の公開】

映像だけでは、視聴者が理解を深めるのが難しい場面も想定されるため、会議資料を事前に見られる環境を整える必要がある。

【アクセス集中への対応】

委員会中継は、多くの職員が視聴（アクセス）することも想定されるため、市民の視聴に影響が出ないように中継システムの仕様を決める必要があると感じた。

(2) SNS

発信内容の固定化に悩み、苦勞していることがわかった。SNSは本市の方がわかりやすい情報発信になっており、実際に市民からも好意的な意見をいただいている。その理由として、広報委員会という超党派の議員で話し合っただけで進めていける体制が功を奏していると感じた。